

1	表題名(ふりがな)	かたがり地蔵(かたがりじぞう)		
2	資料名(ふりがな)	かたがり地蔵(かたがりじぞう)		
3	作成者(所属)	小阪大(白山市)		
4	内容分類	地域文化資料		
5	内容細目	信仰		
6	実施年度	令和元年(2019年)		
7	地域	石川県白山市		
8	検索語(キーワード)	かたがり地蔵、泰澄像		
9	内容	<p>白山町地内の県道沿いに安置されている。凝灰岩製の地蔵菩薩坐像。形態は半跏趺像。明治32年までは、不動明王像とならんで鶴来今町の舟岡山の麓の岩塊に掘られていた磨崖仏。セケ用水造成工事により、岩から切りはがされ現在の場所へ安置された。もともと岩塊にかたがって彫られていたため「かたがり地蔵」の名称となった。切とられた岩は、高さ約2.7m、幅約2.7m、厚さ約1.1mを測る。像は高さ1.4m、幅1.05m、厚さ0.65mを測る。彫り込みの深さは、最深部で25cmを測る。右手に錫杖を持つ。顔部は岩の性質から表現されていない。像の向かって右側には長方形の凹みと陽刻された小さな五輪塔群がみられる。いずれも像の掘方の外側にあり、後に刻まれたものと見られる。上段のものは左腕の横に1基あり、高さ43cmを測る。中段には、はっきり確認できるものが2基あり、高さ30cmを測る。中段には、はっきり確認できるものが2基あり、高さ30cmを測る。さらに像寄りに不整形のものが1基見えるが、五輪塔か否か判断しがたい。下段は像の足下に6基ある。中央に4基、そして1基分の空間をおいてむかって右に2基ある。塔の規模は上段のものが最も大きく、下へ行くに従って小さくなっている。形状を見ると地輪は低く、水輪は扁平、火輪は縦長で軒反りが顕著な特徴が窺える。刻出は室町時代後期とみられる。この地蔵は、小石を供ええると足の病気が治り、箸を供えると歯痛が治ると言い伝えがあり、人々の信仰の対象となっている。また、白山を開山した泰澄が白らの姿を彫った像ともされ「泰澄像」と</p>		
10	特色	加賀白山信仰の遺物		
11	提示種類	映像(静止画)		
12	関連資料			
13	利用分野	観光、歴史遺産資料		
14	ファクトデータ			
15	プロセス			
16	結果			
17	記録媒体	JPEG		
18	権利者(連絡先)	白山市観光文化スポーツ部文化財保護課		
19	協力者(連絡先)			
20	許諾情報			

	21	利用注意			
	22	登録日	2019年11月23日／小阪大		